

STAR

汎用トレーラ

取扱説明書・部品表

製品コード

K55079

型 式

TMT2520

部品供給型式

TMT2520-01

製品コード

K55080

型 式

TMT3520

部品供給型式

TMT3520-01

部品ご注文の際は、必ず部品供給型式をご連絡ください。

“必読” 機械の使用前には必ず読んでください。

STAR-農機株式会社

⚠ 安全に作業するために

安全に関する警告について

本機には、⚠印付きの警告ラベルを貼付しています。安全上、特に重要な項目を示しています。警告を守り、安全な作業を行ってください。

警告ラベルについて

⚠ 危険

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性が高いことを示します。

⚠ 警告

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う可能性があることを示します。

⚠ 注意

その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれがあることを示します。

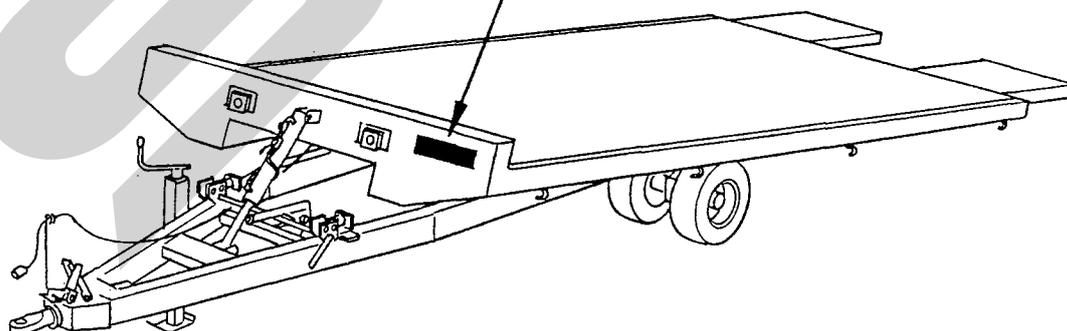
⚠ 注意



本機を運転するときには、必ず取扱説明書をよくお読み下さい。

1. 作業に運した、だぶつきのない服装で行ってください。
2. 酒を飲んだとき、過労、病氣や妊婦しているときは、作業をしないで下さい。子供には運転させないで下さい。
3. 本機を運転するときは、周囲の安全を確認して下さい。
4. 運転前には、必ず点検や調整をして下さい。
5. 点検や調整をするときは、必ずPTOなどの動力遮断や動力停止（エンジン、電源など）をしてから行って下さい。
6. 点検・調整で取り外したカバー類は、必ず元通りに取り付けて下さい。
7. 他人に本機を貸すときは、必ず「取扱説明書」をよく読んでから作業するようすすめて下さい。

部品番号 106164



— ラベルが損傷した時は —

警告ラベルは、使用者および周囲の作業員などへ危険を知らせる大事なものです。ラベルが損傷した時は、すみやかに貼り替えてください。

注文の際には、この図に示す 部品番号 をお知らせください。

安全操作上の注意点

ここに記載されている注意事項を守らないと、死亡を含む傷害を生じる恐れがあります。

作業前には、作業機およびトラクタの取扱説明書をよくお読みになり、十分に理解をしてからご使用ください。

作業前に

取扱説明書は製品に近接して保存を

▲注意

- 機械の取り扱いで分からない事があった時、取扱説明書を製品に近接して保存していないため、自分の判断だけで対処すると思わぬ事故を起こしケガをする事があります。取扱説明書は、分からない事があった時にすぐに取り出せるよう、製品に近接して保存してください。

取扱説明書をよく読んで作業を

▲注意

- 取扱説明書に記載されている安全上の注意事項や取扱要領の不十分な理解のまま作業すると、思わぬ事故を起こす事があります。作業を始める時は、製品に貼付している警告ラベル、取扱説明書に記載されている安全上の注意事項、取扱要領を十分に理解してから行ってください。

こんな時は運転しないでください

▲警告

- 体調が悪い時、機械操作に不慣れな場合などに運転すると、思わぬ事故を起こす事があります。次の場合は、運転しないでください。
 - 過労、病気、薬物の影響、その他の理由により作業に集中できない時。
 - 酒を飲んだ時。
 - 機械操作が未熟な人。
 - 妊娠している時。

服装は作業に適していますか

▲警告

- 作業に適さない服装で機械を操作すると、衣服の一部が機械に巻き込まれ、死亡を含む傷害をまねく事があります。次に示す服装で作業してください。
 - 袖や裾は、だぶつきのないものを着用する。

- ズボンや上着は、だぶつきのないものを着用する。
- 帽子を着用する。
- はちまき、首巻きタオル、腰タオルなどはしない。

機械を他人に貸す時は

▲警告

- 機械を他人に貸す時、取扱説明書に記載されている安全上の注意事項や取扱要領が分からないため、思わぬ事故を起こす事があります。取扱い方法をよく説明し、取扱説明書を渡して使用前にはよく読むように指導してください。

機械の改造禁止

▲注意

- 機械の改造や、当社指定以外のアタッチメント・部品などを取り付けて運転すると、機械の破損や傷害事故をまねく事があります。機械の改造はしないでください。アタッチメントは、当社指定製品を使用してください。部品交換する時は、当社が指定するものを使用してください。

始業点検をする時は

▲注意

- 始業点検を怠ると、機械の破損や傷害事故をまねく事があります。作業を始める前には、取扱説明書に基づき点検を行ってください。

エンジン始動・発進する時は

▲警告

- エンジンを始動する時、トラクタの横やステップに立ったまま行くと、緊急事態への対処ができず、運転者はもちろん周囲にいる人がケガをする事があります。運転席に座り、周囲の安全を確認してから行ってください。
- エンジンを始動する時、主変速レバーを「N」（中立）にして行わないと、変速機が接続状態になっているため、トラクタが暴走し思わぬ事故を起こす事があります。主変速レバーを「N」（中立）にして行ってください。
- 急発進するとトラクタ前輪が浮き上がる事があり、運転者が振り落とされたり、周囲の人を巻き込んだり、思わぬ事故を起こす事があります。周囲の安全を確認し、ゆっくりと発進してください。

- 室内で始動する時、排気ガスにより中毒になる事があります。
窓、戸などを開け、十分に換気してください。

作業機を着脱する時は

▲警告

- 作業機を連結するためにトラクタを移動させる時、トラクタと作業機の間に入っていると、挟まれてケガをする事があります。
トラクタと作業機の間に入を近づけないでください。

▲注意

- 作業機をトラクタに連結する時、傾斜地や凹凸地または軟弱地などで行うと、トラクタが不意に動き出し、思わぬ事故を起こす事があります。
必ず平坦で地盤のかたい所で行ってください。
- 作業機をトラクタから切り離す時、駐車ブレーキをせずに行うと、作業機が暴走して思わぬ事故を起こす事があります。
切り離す時は、スタンドを接地させ、作業機の駐車ブレーキをかけてください。
- 連結するトラクタによっては、前輪荷重が軽くなり、操縦が不安定となって、思わぬ事故をまねく事があります。
トラクタへフロントウエイトを取り付け、バランスを取ってください。

公道走行時は作業機の装着禁止

▲注意

- トラクタに作業機を連結して公道を走行すると、道路運送車輛法に違反します。
トラクタに作業機を連結しての走行はしないでください。

移動走行する時は

▲危険

- 移動走行する時、トラクタのブレーキペダルが左右連結されていないと、片ブレーキになり、トラクタが左右に振られ横転などが起こり、思わぬ事故をまねく事があります。
ほ場での特殊作業以外は、ブレーキペダルは左右連結して使用してください。

▲警告

- 移動走行する時は、慣性ブレーキを解除したまま走行しないでください。
ブレーキが効かず、思わぬ事故を起こす事があります。

- トラクタに運転者以外の人を乗せると、トラクタから転落したり、運転操作の妨げになって、緊急事態への対処ができず、同乗者はもちろん、周囲の人および運転者自身がケガをする事があります。
トラクタには、運転者以外の方は乗せないでください。

- 急制動・急旋回を行うと、運転者が振り落とされたり、周囲の人を巻き込んだり、思わぬ事故を起こす事があります。
急制動・急旋回はしないでください。

- 運搬走行時、重心の位置が高くなり、坂道・凹凸地・カーブで速度を出しすぎると、転倒あるいは転落事故を起こす事があります。
低速走行してください。

- 旋回する時、内輪差により周囲の人を作業機に巻き込み、ケガをさせる事があります。
周囲の人や障害物との間に十分な間隔を保ってください。

- 側面が傾斜していたり、側溝がある通路で路肩を走行すると転落事故を起こすことがあります。
路肩は走行しないでください。

- 高低差が大きい段差を乗り越えようとすると、トラクタが転倒あるいは横転し、ケガをする事があります。
あゆみ板を使用してください。

- 作業機の上に人を乗せると、転落し、ケガをする事があります。
作業機の上には、人を乗せないでください。

荷物を積載する時は

▲注意

- 過積載あるいは片荷積載をすると、旋回時、作業機が転倒し、ケガをする事があります。
また、トラクタの操縦が不安定となり、思わぬ事故をまねく事があります。
指定された最大積載量を超えないでください。

作業中は

作業する時は

▲警告

- 作業機をトラクタに連結しないで、積み込みあるいは荷降ろし作業を行うと、転倒や暴走などにより、思わぬ事故を起こす事があります。トラクタに連結させて行ってください。トラクタ及び作業機の駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止させ、主変速レバー、副変速レバー共、低速位置にいらしてから行ってください。
- 作業をする時、周囲に人を近づけると、機械に巻き込まれ、ケガをする事があります。周囲に人を近づけないでください。

▲注意

- 傾斜地や凹凸地または軟弱地などで積み込み作業あるいは荷降ろし作業を行うと、積載するトラクタやコンバインなどが脱輪や転倒し、思わぬ事故を起こす事があります。平坦で地盤のかたい所で行ってください。
- 積み込み作業や荷降ろし作業をする時、アユミ上やボディー上でハンドル操作をすると、脱輪や転落など、思わぬ事故を起こす事があります。アユミおよび作業機ボディーに対し、まっすぐに移動ができないときは、もう一度やりなおしてください。

トラクタから離れる時は

▲警告

- トラクタから離れる時、傾斜地や凹凸地などに駐車すると、トラクタが暴走して思わぬ事故を起こす事があります。平坦で安定した場所に駐車し、トラクタのエンジンをとめ、駐車ブレーキをかけて暴走を防いでください。

作業が終わったら

終業点検をする時は

▲注意

- 作業後の点検を怠ると、機械の調整不良や破損などが放置され、次の作業時にトラブルを起こしたり、ケガをする事があります。作業が終わったら、取扱説明書に基づき点検を行ってください。

不調処置・点検・整備をする時

▲注意

- 機械に異常が生じた時、そのまま放置すると、破損やケガをする事があります。取扱説明書に基づき行ってください。
- 傾斜地や凹凸地または軟弱地などで行うと、トラクタや作業機が不意に動き出して、思わぬ事故を起こす事があります。平坦で地盤のかたい所で行ってください。
- 作業機をあげた状態のまま下にもぐったり、足を入れたりすると、不意に降下し、ケガをする事があります。下に入る時は、台などで降下防止をして行ってください。
- 油圧の継手やホースに、ゆるみや損傷があると、飛び出る高圧オイルあるいはボディーの急な降下で、ケガをする事があります。補修もしくは部品交換してください。継手やホースを外す時は、油圧回路内の圧力を無くしてから行ってください。

もくじ

	安全に作業するために	
	安全に関する警告について …… 1	作業が終わったら …… 4
	作業前に …… 2	不調処置・点検・整備をする時 …… 4
	作業中は …… 4	

1	トラクタへの装着	
	1 各部の名称とはたらき …… 7	4 トラクタへの装着 …… 9
	2 適応トラクタの範囲 …… 8	1. ドローバへの連結 …… 9
	3 ステー・ロープの組立 …… 8	2. スタンドのたたみ方 …… 9
		3. 電装の接続 …… 9

2	運転を始める前の点検	
	1 運転前の点検 …… 10	2 エンジン始動での点検 …… 10
	1. トラクタ各部の点検 …… 10	1. トラクタの電装がトラクタと 正しく連動するか …… 10
	2. 連結部の点検 …… 10	3 給油箇所一覧表 …… 11
	1) トラクタの「ドローバ」とヒッチカンの 連結部点検 …… 10	
	2) 電装コネクタの点検 …… 10	
	3. 製品本体の点検 …… 10	

3	作業の仕方	
	1 積み込み作業 …… 12	3 荷降ろし作業 …… 14
	2 運搬作業 …… 13	

4 作業が終わったら

1 作業後の手入れ …15

2 長期格納する時 …15

5 点検と整備について

1 電球の交換 …15

3 ブレーキの調整方法 …16

2 油圧装置の調整方法 …15

4 点検整備一覧表 …16

6 不調時の対応

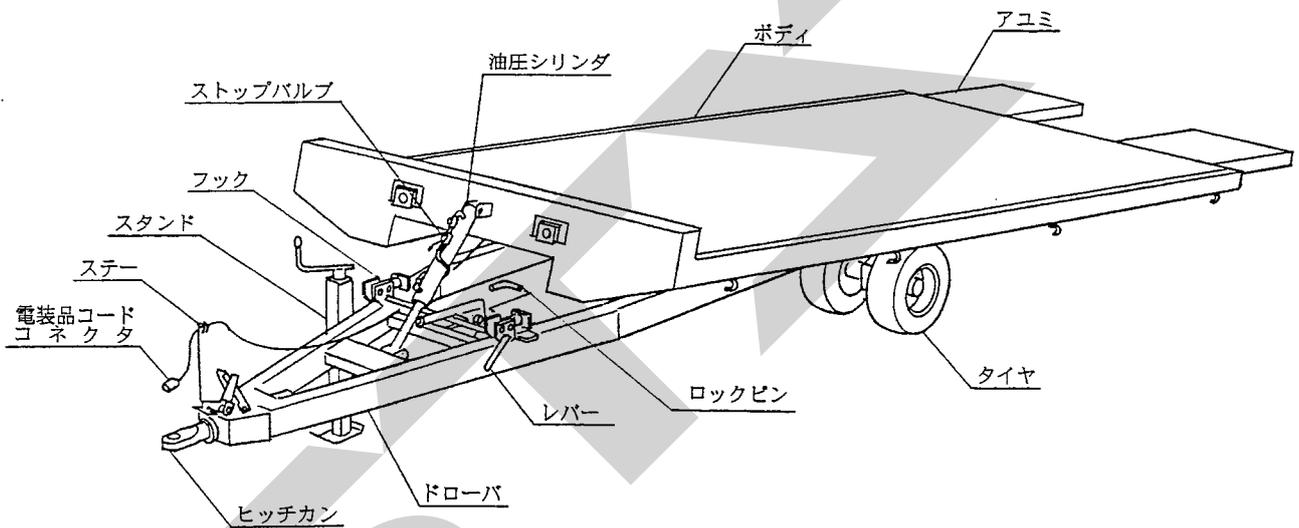
1 不調処置一覧表 …17

7 部品表 …………… 18

1 トラクタへの装着

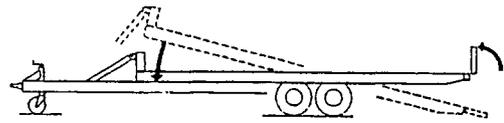
適切な装着で安全な作業をしましょう。

1 各部の名称とはたらき



1. ヒッチカン : トラクタに連結し、けん引します。
2. アユミ : トラクタやコンバインの積み降ろしに使用します。
移動時はアユミを上げピンでロックします。
3. スタンド : 作業機をトラクタからはずしたときに使用します。高さ調整はハンドルで行います。
4. 駐車ブレーキレバー : レバーを上にはき上げると駐車ブレーキが働き、解除するときは、レバー先端のボタンを押しながらレバーを下げます。
5. 慣性ブレーキ : トラクタがブレーキをかけた際、トレーラがトラクタを押す力を利用して、トレーラのブレーキが働きます。
6. ガススプリング : 慣性ブレーキによるショックを柔らげるとともに、平坦な路面では、ブレーキを解除せずに後進できます。
7. 慣性ブレーキストッパー : 後進で坂道を登る場合、慣性ブレーキを解除します。
8. フック : ボディをドローバに固定します。
9. 油圧シリンダ : ボディの昇降速度調整に使用します。油圧回路は閉回路になっているのでトラクタ油圧は必要ありません。
10. ストップバルブ : ボディ昇降時の油圧回路の開閉及び昇降速度の調整に使用します。

※ **ボディ水平** : ボディを水平にし、アユミを上げた状態で、運搬状態になります。



2 適応トラクタの範囲

本製品は、適切なトラクタとの装着により的確に性能を発揮できるよう設計されています。

不適切なトラクタとの装着によっては本製品の耐久性に著しく影響を及ぼしたり、トラクタの運転操作に著しい悪影響を及ぼすことがあります。

この製品の最大積載量及び適応トラクタ馬力は次のとおりです。

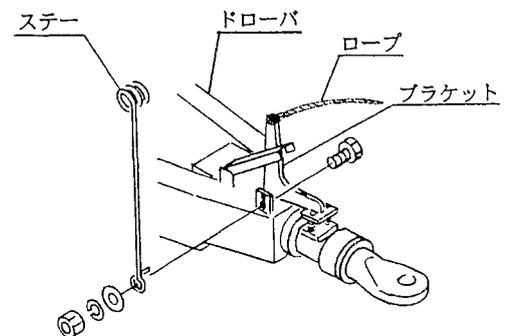
型 式	最大積載量	トラクタ馬力
TMT 2 5 2 0	2 5 0 0 kg	2 5 Ps以上
TMT 3 5 2 0	3 5 0 0 kg	3 5 Ps以上

取扱い上の注意

指定された最大積載量を超えた積載物を運搬した場合は、保証の対象にはなりませんのでご注意ください。

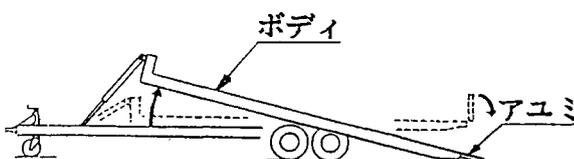
3 ステー・ロープの組立

- (1) ステーをドローバにボルトで固定してください。
- (2) 電装品コードをステーのリングに通してください。



- (3) ドローバ先端部の慣性ブレーキ解除操作用ブラケットにロープを取り付けてください。

※ **ボディ傾斜** : アユミを下げボディを傾斜させると、積み込み・荷降ろし状態になります。



4 トラクタへの装着

1. ドローバへの連結

⚠ 警告

- 作業機を連結するためにトラクタを移動させる時、トラクタと作業機の間に入っていると、挟まれてケガをする事があります。トラクタと作業機の間に入を近づけないでください。

⚠ 注意

- 作業機をトラクタに連結する時、傾斜地や凹凸地または軟弱地などで行うと、トラクタが不意に動き出し、思わぬ事故を起こす事があります。平坦で 地盤のかたい所で行ってください。
- 連結するトラクタによっては、前輪荷重が軽くなり、操縦が不安定となって、思わぬ事故を起こすことがあります。トラクタへフロントウエイトを取付け、バランスを取ってください。

- (1) トラクタのドローバの高さに作業機のヒッチの高さを合わせてください。(スタンドのハンドルで調整してください。)
- (2) トラクタのエンジンを始動して、トラクタを後進させ、ドローバの連結点に作業機のヒッチカンの穴をあわせて、エンジンを止め、駐車ブレーキをかけてください。
- (3) トラクタ付属のヒッチピンを通し連結してください。

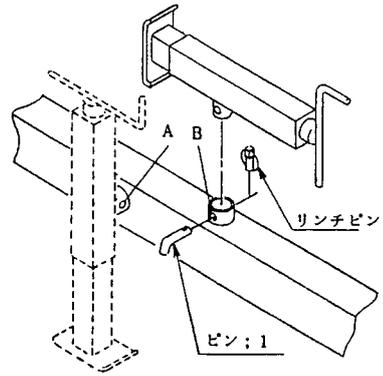
取扱上の注意

ヒッチピンには抜け止めのため、リンチピンあるいはベータピンを取り付けてください。

- (4) スタンドのハンドルを回していっぱいまで上げ、スタンドをたたんでください。
- (5) トレーラ側の電装コネクタをトラクタ側のコネクタに装着してください。
- (6) 慣性ブレーキ解除操作用のブラケットに取り付けたロープを、トラクタ座上まで引き込んでください。

2. スタンドのたたみ方

- (1) スタンドのハンドルを回していっぱいまで上げてください。
- (2) スタンドのピン;1をAの穴から抜きスタンドを差しかえてください。
- (3) ピンをBの穴に挿入し抜け止めにリンチピンを差ししてください。



取扱上の注意

トラクタの外部油圧は使用しませんので油圧ホースはトラクタの外部油圧取り出し口に接続しないでください。

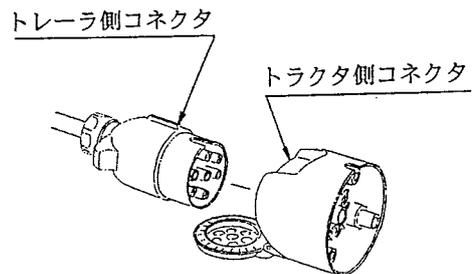
3. 電装の接続

取扱上の注意

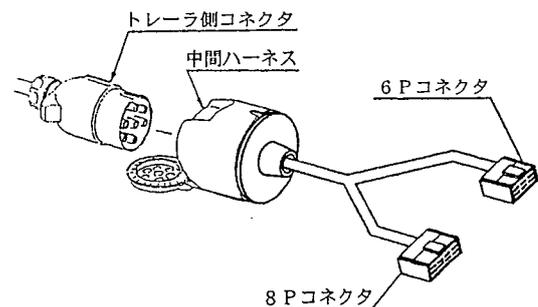
トラクタに電装品の結線をする時、エンジンキーをOFFにしないで行うとショートすることがあります。エンジンキーをOFFにして行ってください。

作業機にはトラクタと連動するテールランプを装備しています。

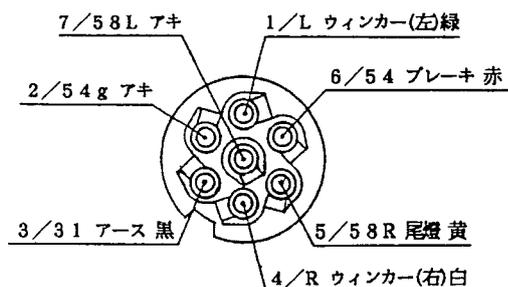
電装はトラクタとコネクタで接続します。作業機には、6 Pコネクタ、又は8 Pコネクタに対応した中間ハーネスを装備しています。トラクタ側の外部電装品取り出し口が、6 Pコネクタ、又は8 Pコネクタで装備されている場合は、中間ハーネスを使用して接続してください。



トラクタ側に外部電装品取り出し口が装備されていない場合は、トラクタ側コネクタの電気配線が必要となります。

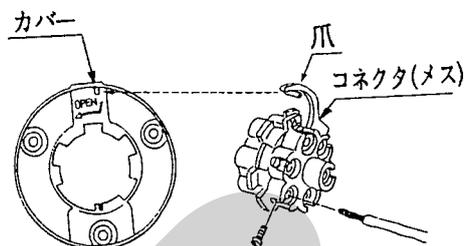


作業機の電気配線は下図の通りです。



- (1) トラクタ側コネクタのキャップを持ち上げ、トレーラ側コネクタから抜いてください。
- (2) トラクタ側コネクタの爪をはずし、反時計まわりにまわすとコネクタがカバーからはずれず。

- (3) マイナス (-) ドライバーでネジを緩め、それぞれの端子にコードを配線し、締め付けてください。
- (4) 再度、カバーにはめ込み、時計回りにまわし、爪を掛けてください。



- (5) コネクタはトレーラと連結したとき接続しやすい場所に取り付けてください

2 運転を始める前の点検

機械を調子よく長持ちさせるため、作業前に必ず行いましょう。

1 運転前の点検

1. トラクタ各部の点検

トラクタの取扱説明書に基づき点検を行ってください。

2. 連結部の点検

- (1) トラクタのドロワーとヒッチカンの連結部点検

- ① ヒッチピンのリンチピンまたはベータピンは確実に挿入されているか。
- ② スイングドロワーはしっかりと固定されているか。
- ③ 不具合が見つかった時は、「1-4-1 ドロワーへの連結」の説明に基づき不具合を解消してください。

- (2) 電装コネクタの点検

- ① トラクタの電装コネクタと確実に接続されているか。
- ② 電装コードに余分なたるみはないか、また、適度な余裕があるか。

3. 製品本体の点検

- (1) シャジク取付ボルトにゆるみはないか。
- (2) ハブボルトにゆるみはないか。
- (3) 油圧系統に油漏れはないか。
- (4) 各部の給油、注油、給脂は十分か。
- (5) タイヤの亀裂、損傷がないか。
- (6) タイヤに石、その他の異物をはさまっていないか。
- (7) タイヤの溝深さは適正か。また、異常摩耗していないか。
- (8) タイヤの空気圧は十分か。
- (9) 駐車ブレーキの効き具合はよいか。

型 式	タイヤサイズ	空 気 圧
TMT2520	5.00-9- 8PR	680KPa
TMT3520	6.00-9-10PR	(7.0kg/cm ²)

2 エンジン始動での点検

1. トレーラの電装がトラクタと正しく連動するか

トラクタのブレーキ、ウィンカーの操作をして、トレーラのテールランプが正しく連動するか確認してください。

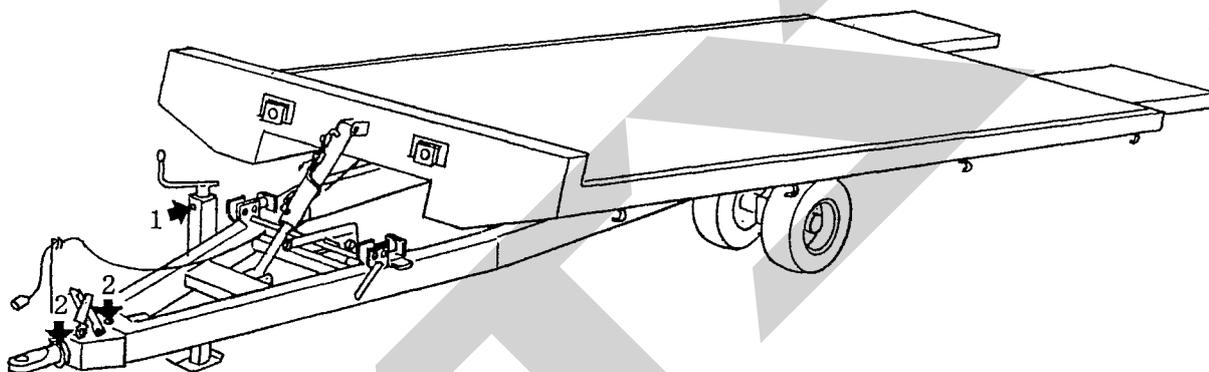
不調箇所が見つかった時は、「6-1 不調処置一覧表」に基づき処置してください。

トラクタ油圧系統などが不調な時は、トラクタ販売店にご相談ください。

3 給油箇所一覧表

図は給脂箇所を示します。表に基づき給脂してください。

No.	給脂箇所	箇所	潤滑油の種類	給油間隔	備 考
1	スタンド	1	グリース	使用ごと	
2	ヒッチ	2	"	"	



3 作業の仕方

1 積み込み作業

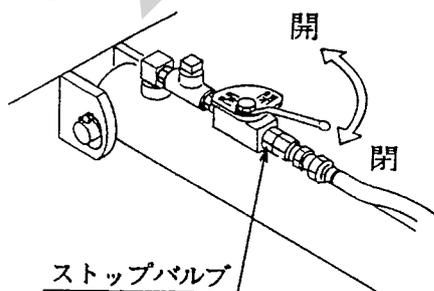
▲ 警告

- 作業機をトラクタに連結しないで、積み込み作業を行うと、作業機の転倒や暴走などにより思わぬ事故を起こすことがあります。
トラクタに連結させて行ってください。
トラクタ及び作業機の駐車ブレーキをしっかりとかけ、エンジンを停止させ、主変速レバー、副変速レバー共、低速位置に入れてから行ってください。
- 過積載あるいは片荷積載をすると、旋回時に作業機が転倒し、ケガをする事があります。
また、トラクタの操縦が不安定となり、思わぬ事故をまねく事があります。
指定された最大積載量を超えないでください。

▲ 注意

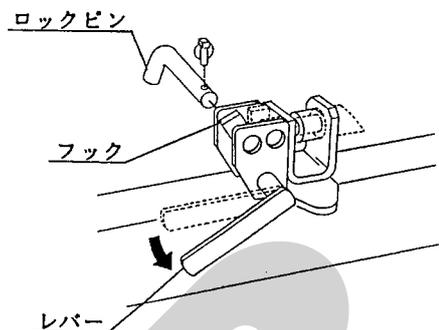
- 傾斜地や凹凸地または軟弱地などで積み込み作業を行うと、積載するトラクタやコンバインなどが脱輪や転倒し、思わぬ事故を起こす事があります。
平坦で、地盤のかたい所で行ってください。
- 積み込み作業をする時、アユミ上やボディー上でハンドル操作をすると、脱輪や転落など、思わぬ事故を起こす事があります。
アユミおよび作業機ボディーに対し、まっすぐに積み込みができないときは、もう一度やりなおしてください。

- (1) トラクタのエンジンをとめ、駐車ブレーキをかけてください。
- (2) トレーラ前方のストップバルブを全開にしてください。

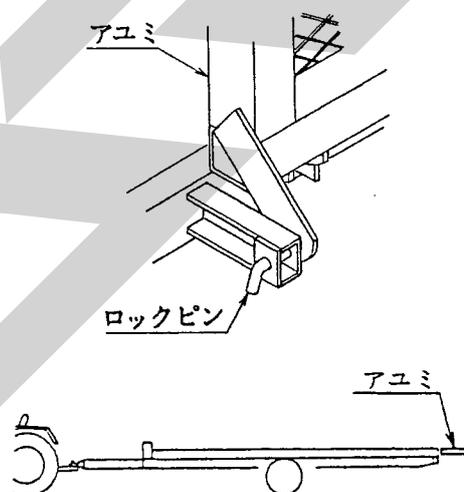


- (3) ロックピンを抜いてください。
外したピンはドローバに取り付けておいてください。

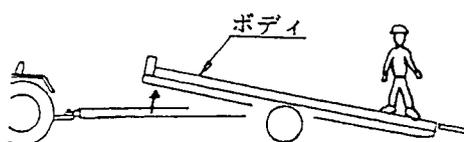
- (4) レバーを下げ、ピンを外してください。



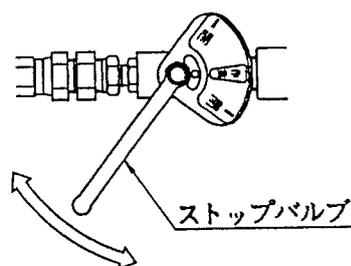
- (5) アユミのロックピンを抜き、アユミを下げてください。



- (6) ボディーの後方に乗り、ボディーを傾斜させます。



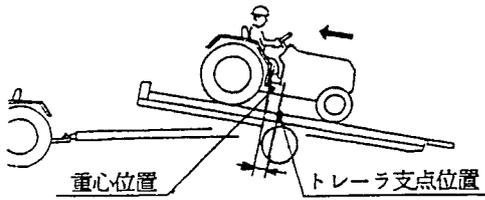
- (7) ストップバルブを「作業」の位置にしてください。



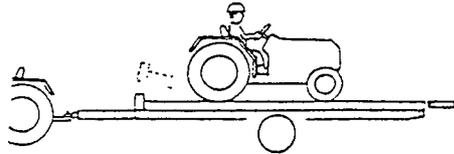
- (8) 積載するトラクタやコンバインを積み込んでください。
積み込みはできるだけ後進でゆっくり積み込んでください。

2 運搬作業

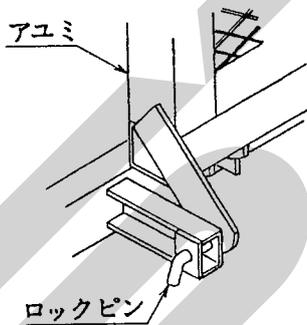
- (9) 積載するトラクタやコンバインの重心位置がトレーラの支点位置を越えるとボディが水平になりはじめます。



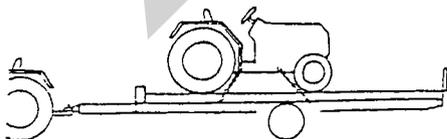
- (10) ボディが水平になりはじめたら一度トラクタやコンバインを停止してください。



- (11) 完全に水平になったら、10~20cmドロバ側に移動し停止してください。エンジンをとめ、駐車ブレーキをかけ、ギヤを1速に入れてください。
- (12) フックがかかっていることを確認してロックピンを挿入し、抜け止めにリンチピンを差ししてください。
- (13) アユミを持ち上げロックピンで固定してください。



- (14) ロープフックを利用して積み荷をしっかりとしばりボディに固定してください。



取扱い上の注意

作業機のヒッチ点荷重は最大300kgに設定されています。ヒッチ点荷重が設定最大値をオーバーしますとトラクタの前後バランスが悪くなり、走行が不安定になります。

設定値をオーバーしないでください。

警告

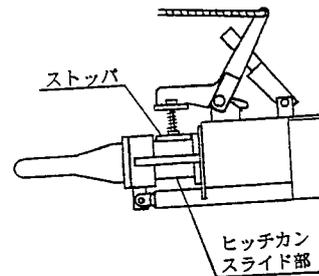
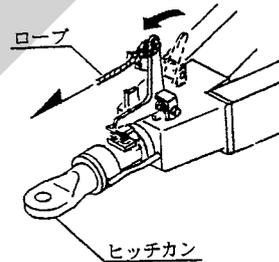
- 運搬走行時、重心位置が高くなり、坂道・凹凸地・カーブで速度を出しすぎると、転倒あるいは転落事故を起こすことがあります。低速走行してください。
- 移動走行する時は、慣性ブレーキを解除したまま走行しないでください。ブレーキが効かず思わぬ事故を起こすことがあります。

1. 慣性ブレーキの解除方法

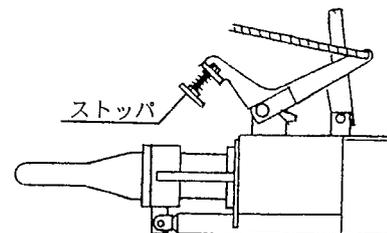
後進で坂道を登る場合、慣性ブレーキが働き後進できないことがあります。

慣性ブレーキストップをヒッチカンスライド部に入れ、慣性ブレーキを解除してください。

- (1) トラクタ座上に引き込んだロープをストップがヒッチカンスライド部に入った状態で止まるまで手前に引いてください。慣性ブレーキは解除されます。



- (2) ストップがヒッチカンスライド部に入った状態からもう一度手前にロープを引くと、ストップがはね上がり、ヒッチカンスライド部から外れます。慣性ブレーキは作動します。



3 荷降ろし作業

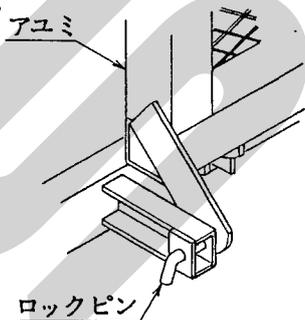
▲ 警告

- 作業機をトラクタに連結しないで、荷降ろし作業を行うと、作業機の転倒や暴走などにより、思わぬ事故を起こす事があります。
トラクタに連結させて行ってください。
トラクタ及び作業機の駐車ブレーキをしっかりとかけ、エンジンを停止させ、主変速レバー、副変速レバー共、低速位置に入れてから行ってください。

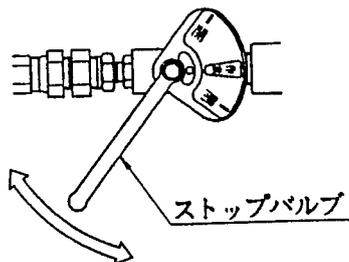
▲ 注意

- 傾斜地や凹凸地または軟弱地などで荷降ろし作業を行うと、積載するトラクタやコンバインなどが脱輪や転倒し、思わぬ事故を起こす事があります。
平坦で、地盤のかたい所で行ってください。
- 荷降ろし作業をする時、アユミ上やボディ上でハンドル操作をすると、脱輪や転落など、思わぬ事故を起こす事があります。
アユミおよび作業機ボディに対し、まっすぐに移動ができないときは、もう一度やりなおしてください。

- (1) トラクタのエンジンをとめ、駐車ブレーキをかけてください。
- (2) しばったロープをほどいてください。
- (3) アユミのロックピンを抜き、アユミを下げてください。

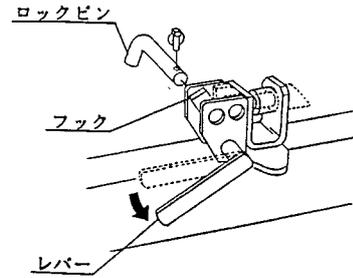


- (4) ストップバルブを「作業」の位置にしてください。

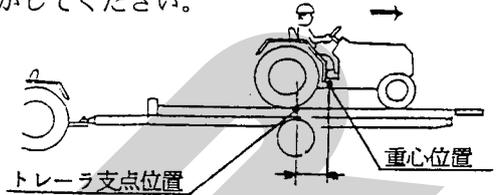


- (5) ロックピンを抜いてください。
外したピンはドローバに取り付けておいてください。

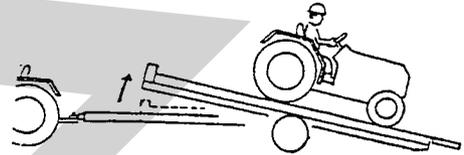
- (6) レバーを下げ、ピンを外してください。



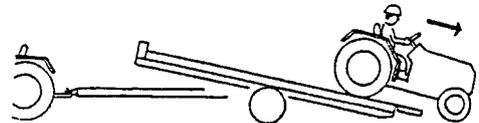
- (7) 積載したトラクタやコンバインをゆっくり動かしてください。



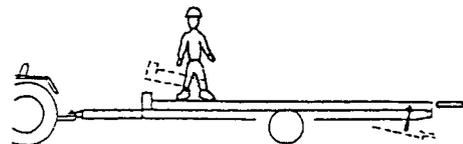
- (8) 積載したトラクタやコンバインの重心位置がトレーラの荷台支点位置を越えると、ボディが傾斜しはじめます。
その位置で一度トラクタを停止してください。



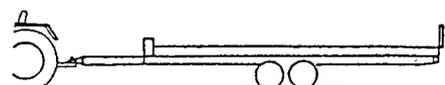
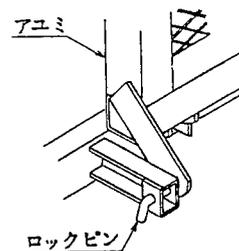
- (9) アユミが地面についたら、再び、積載したトラクタやコンバインを動かし、トレーラから降ろしてください。



- (10) ストップバルブを全開にしてください。
- (11) ボディの前方に乗り、ボディを水平にします。



- (12) フックが掛かっていることを確認してロックピンを挿入し、抜け止めにリンチピンを差ししてください。
- (13) アユミを持ち上げロックピンで固定してください。



4 作業が終わったら

1 作業後の手入れ

- (1) ボルト、ナット、ピン類の緩み、脱落がないか。又、破損部品がないか確認してください。異常があれば、ボルトの増締め、部品の交換をしてください。
- (2) トラクタから作業機をはずす時は、スタンドをたててから行ってください。また、電装品のコネクタも忘れずにはずしてください。

2 長期格納する時

- (1) 機械各部の清掃をして下さい。

- (2) 摩耗した部品、破損した部品は、交換してください。
- (3) 「2-3 給油箇所一覧表」に基づき、油脂を補給して下さい。また、電装コネクタの端子には市販の防錆剤をスプレーして下向きに保管してください。
- (4) 塗装損傷部を補修塗装、または、油を塗布し、さびの発生を防いでください。
- (5) 地盤のかたい平坦な場所に保管してください。やむをえず傾斜のある場所に保管する場合は、オプションの車輪止めを購入して使用してください。
- (6) 格納は風通しの良い屋内に保管してください。
- (7) やむをえず屋外に保管する時は、シートをかけてください。

5 点検と整備について

調子よく作業するために、定期的に行いましょう。

機械の整備不良による事故などを未然に防ぐために、「点検整備一覧表」に基づき、各部の点検整備を行い、機械を最良の状態で、安心して作業が行えるようにしてください。

1 電球の交換

テールランプの電球を交換する際はレンズを取り外して行ないます。

電球は当社推奨の規格を使用してください。

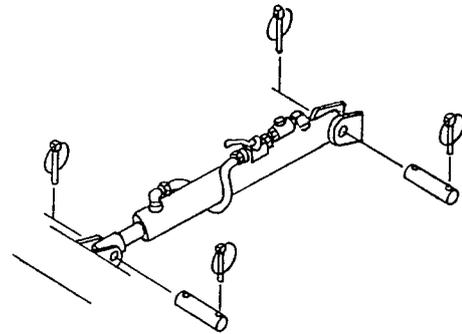
	定 格	スバル-品番(券)
ウィンカー	12V 21W S25	BP4575B
尾 灯	12V 21W/5W S25	BP4875B
制 動 灯		

2 油圧装置の調整方法

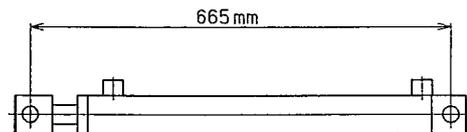
取扱い上の注意

油圧装置は工場出荷時に調整しています。油漏れや油圧部品の交換等のトラブルが発生したとき以外はいじらないでください。

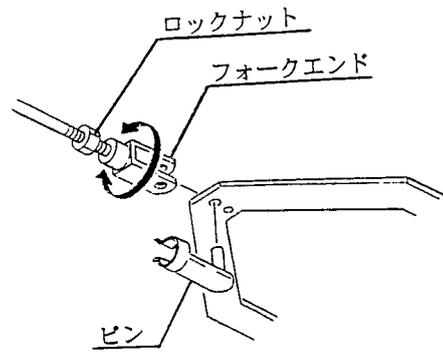
- (1) シリンダを取付けているピンをはずしてください。



- (2) 油モレの修理や油圧部品の交換を実施してください。
- (3) ロックアッププラグをはずし、シリンダの寸法を665mmにセットしてください。



- (4) 油差しでオイルを注入し、シリンダ内やホース内のエアを完全に除去してください。
- (5) ロックアッププラグにシールテープを巻き付け、シリンダに取付けてください。
- (6) シリンダをボディとドロバに取付けてください。
- (7) ボディの上げ降ろしをして、異常がないか確認してください。

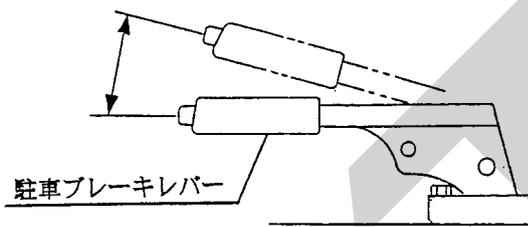


3 ブレーキの調整方法

1. 駐車ブレーキ

駐車ブレーキレバーを解除した状態でレバーの遊び量が20～25mmになるように調整してください。

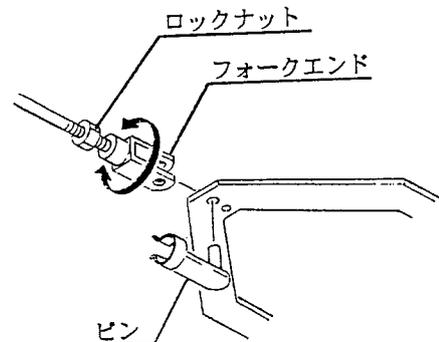
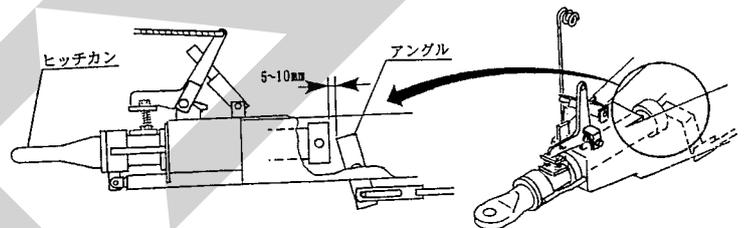
- (1) 駐車ブレーキレバーを押し下げた状態で駐車ブレーキロッドのロックナットをゆるめ、フォークエンドのピンをはずします。
- (2) 駐車ブレーキレバー先端の遊び量が20～25mmになるようフォークエンドをまわし、フォークエンドのピンを取り付け、ロックナットを締め付け固定します。



2. 慣性ブレーキ

ヒッチカンが伸びた状態でブレーキ作動用アングルとヒッチカンとのスキマが5～10mmになるよう調整してください。

- (1) ヒッチカンが伸びた状態で慣性ブレーキロッドのロックナットをゆるめ、フォークエンドのピンをはずします。
- (2) ブレーキ作動用アングルとヒッチカンのスキマが5～10mmになるようフォークエンドをまわし、フォークエンドのピンを取り付け、ロックナットを締め付け固定します。



4 点検整備一覧表

時間	点検項目	処置
新品使用1時間	全ボルト・ナットのゆるみ	増し締め
作業前 作業後	①機械の清掃 ②油圧系統油漏れ ③タイヤ空気圧 ④ボルト・ナット・ピン類のゆるみ、脱落 ⑤駐車ブレーキの効き具合 ⑥慣性ブレーキの効き具合	継手部はシールで補修 680KPa (7.0 kg/cm ²) 増し締め、部品補給 駐車ブレーキレバーの遊び量を調整する。 ブレーキの遊び量を調整する。
シーズン終了後	①破損部 ②各部の清掃 ③塗装損傷部 ④回動支点、ピン等の摩耗	補修 塗装または油塗布 部品交換

6 不調時の対応

エンジンをとめてから点検してください。

▲ 注意

- 点検調整する時、不意にトラクタが動きだし、はさまれてケガをすることがあります。
エンジンを切り、駐車ブレーキをかけてから行ってください。

トラブルが発生したら「6-1 不調処置一覧表」に基づき処置してください。

機械の調子が悪いときは、表を参考にし、エンジンをとめ、駐車ブレーキをかけてから処置してください。

1 不調処置一覧表

症 状	原 因	処 置
走行中ハンドルを取られる。 ふらつく。	片荷になっている。 タイヤのパンク。 シャジク、ハブボルトのゆるみ。 積荷のしぼり方が不十分 タイヤの空気圧が低い。	左右均等になるよう積み直しをする。 パンク修理する。 増しじめる。 しぼりなおす。 空気圧を上げる。
ボディの昇降スピードが 制御できない。	ストップバルブ不良。 油圧系統にモレがある。	部品交換。 修理。
ブレーキが片効きする。	片荷になっている。 タイヤのパンク。 タイヤの空気圧が均等でない。	左右均等になるよう積み直しをする。 パンク修理する。 空気圧を均等にす。
ブレーキが効かない。	ブレーキライニングシューの摩 耗。 ブレーキドラム内への油分・水 分の混入。	ブレーキライニングシューの交換。 ブレーキドラム内の清掃又は部品交 換。

機械の調子が悪いとき、「6-1 不調処置一覧表」に基づき点検、処置をしても、なお不具合があるときは、下記の点を明確にしてお買い上げいただいた販売店、農協、お近くの当社営業所までご連絡ください。

<連絡していただきたい内容>

- 型式名と製造番号
- ご使用状況は？
(どんな作業をしていたときに)
- どのくらい使用されましたか？
(約□□時間使用后)
- 不具合の発生したときの状況をできるだけ詳しくお教えてください。

7 部 品 表

部 品 の ご 注 文 に つ い て

1. 部品ご注文の際は、下記項目をご連絡ください。

- ①製品名
- ②部品供給型式（型式）
- ③部品名称（部品表を参照してください。）
- ④部品番号（部品表を参照してください。）
- ⑤個 数（部品表を参照してください。）

※部品供給型式は取説・部品表表紙および本体に貼付のネームプレートに表示しています。

2. 部品名称欄に「⑨付」と表示している部品には、該当見出番号の部品が含まれております。

例

見出番号	部品番号	部品名称	個数
1	92602	シャフト	2
2	ONAS6	グリースニップル;A-M6×1F	6

このシャフトには、見出番号2のグリースニップルが取り付けられている事を示します。

3. 使用型式により部品番号や個数が異なる場合は、部品名称欄に注記していますのでご注意ください。

4. ボルト・コネジ・ナット類の部品番号末尾に記載されている英文字は以下のことを表しております。

(例) B Z 0 8 1 5 A (G)
└──┬──┘ (メッキ仕上げ)

- A ; ナット・スプリングワッシャ付
- D ; ナット 2 個付
- N ; ナット付
- P ; ワッシャ付
- W ; スプリングワッシャ付

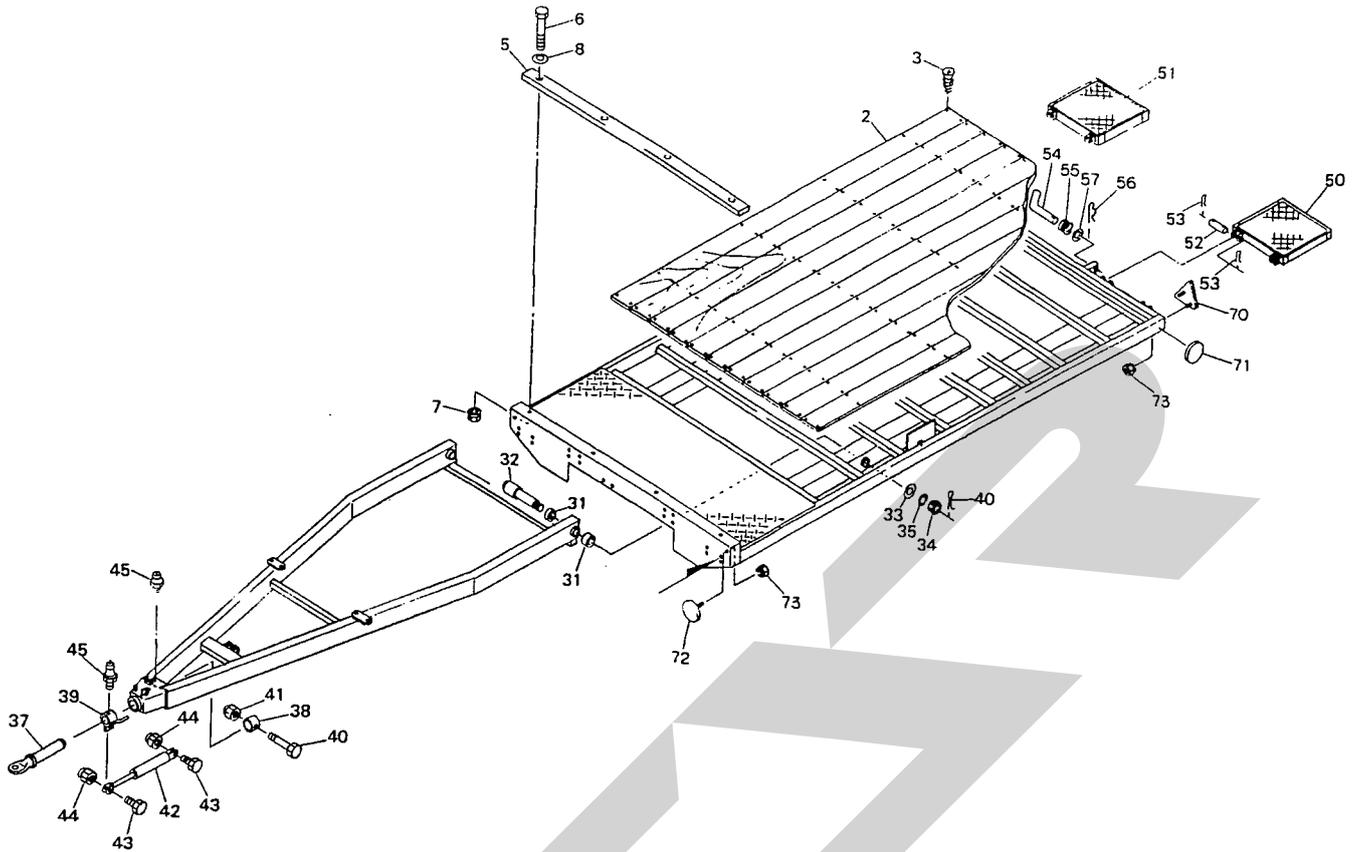
5. 個数欄の 、 は、以下のことを表しております。

- … シムなど、組み込まれている個数が製品個々により異なる部品
- … アッセイ品に含まれる部品で単品では供給しない部品

補 修 部 品 の 供 給 年 限 に つ い て

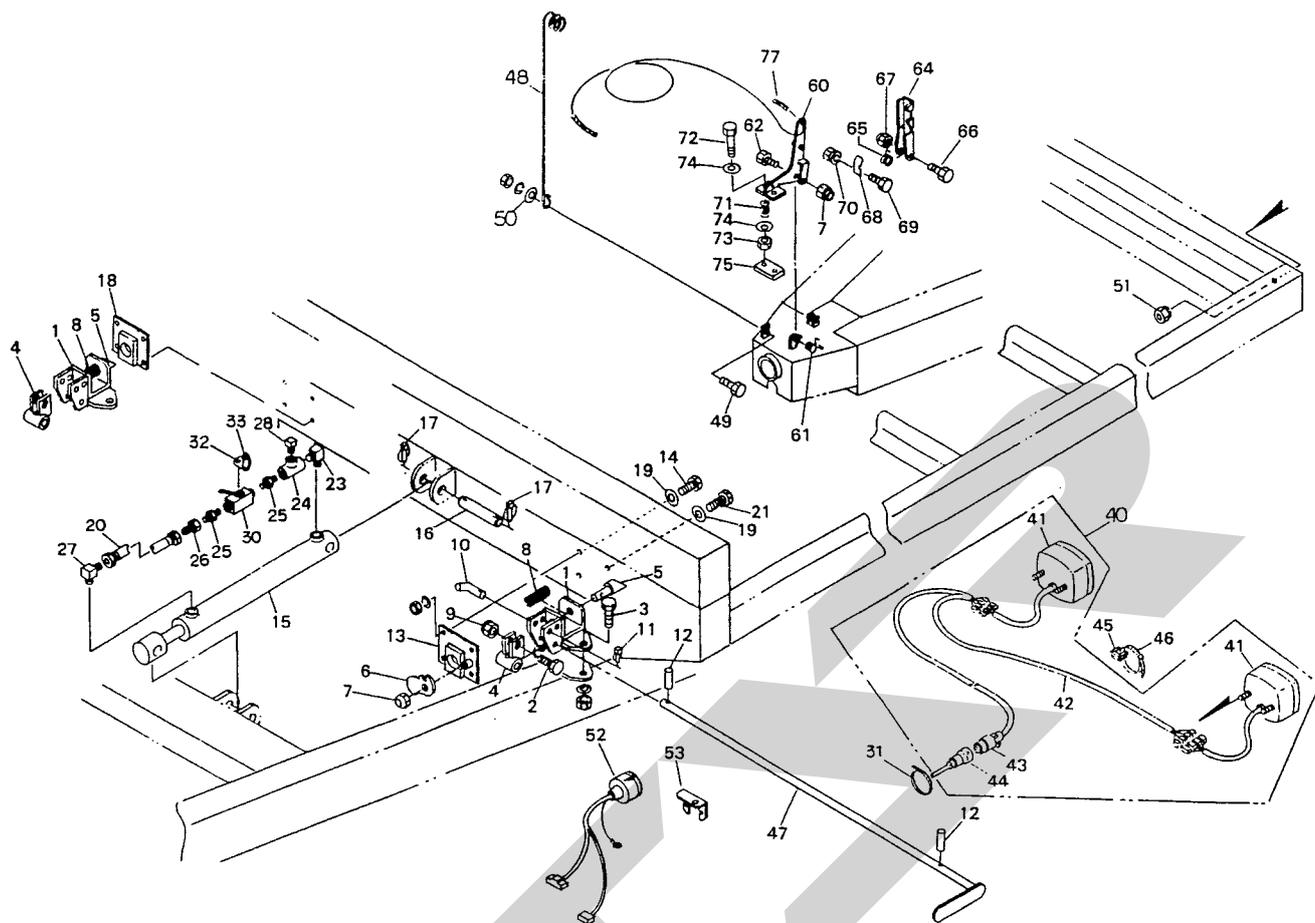
この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後9年です。ただし、供給年限内であっても、特殊部品については納期などをご相談させていただく場合もあります。

補修部品の供給は原則的には上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合は納期および価格についてご相談させていただきます。



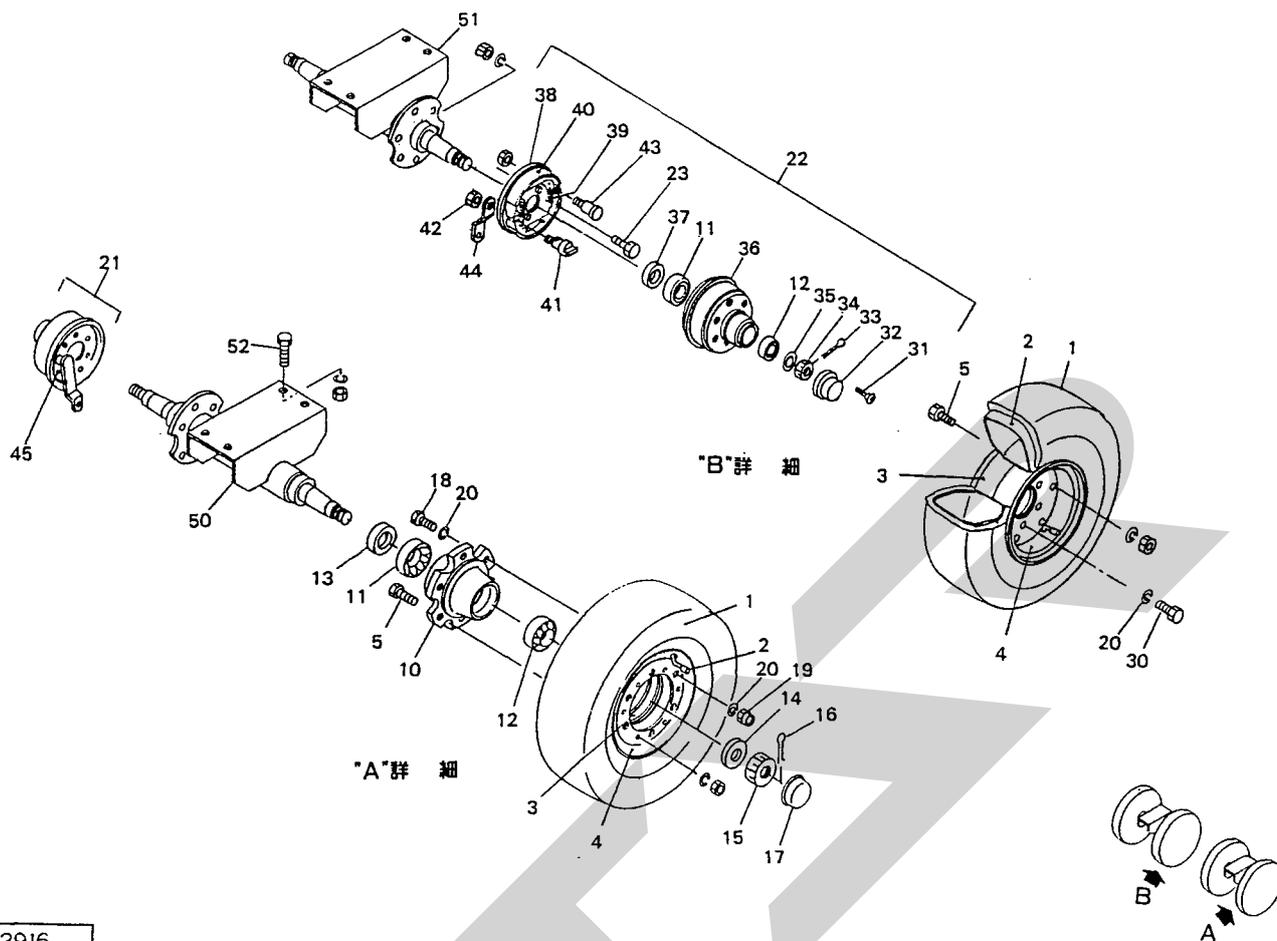
12914

見出番号	部品番号	部品名称	個数	見出番号	部品番号	部品名称	個数
2	109441	ユカイタ	1	50	109437	ブリッジ; L	1
3	TX0645G	十字穴付タッピンネジ(サ2種) ; M6×45	80	51	109436	ブリッジ; R	1
				52	107097	ピン; φ16×104	4
				53	00087	ベータピン; 16×2.3	8
5	107152	パンパ	1	54	66727	ピン	2
6	BS10060	コガタボルト 7 M10×60	4	55	67032	スプリング	2
7	NSZ10	コガタスパックナット 4 M10	4	56	00085	ベータピン	2
8	44098	ワッシャ; 10	4	57	WRA12G	ワッシャ; M12	2
31	KBB4550	ドライベアリング ; KBB4550-OA	4	70	00930	ハンシャキ; R-150TR ㊦73付	2
				71	00933	ハンシャキ; R-60CIS ㊦73付	2
32	107157	シャフト	2	72	00934	ハンシャキ; Y-60CI ㊦73付	2
33	WRA30G	ワッシャ; M30	2	73	NP05G	スプリングナット; M5	6
34	00713	キャスルナット; M30×1.5	2				
35	WS30G	Sワッシャ; M30	2				
37	113355	ヒッチカン	1				
38	113361	カラー	1				
39	113362	パイプ	1				
40	BZ16100G	ボルト; M16×100(8.8)	1				
41	NN16G	ナイロンナット; M16	1				
42	96827	ガススプリング; 270×80×90	1				
43	BSZ10035	コガタボルト 7 M10×35	2				
44	NN10G	ナイロンナット; M10	2				
45	ONAS6	グリースニップル; A×M6-1F	2				



12915

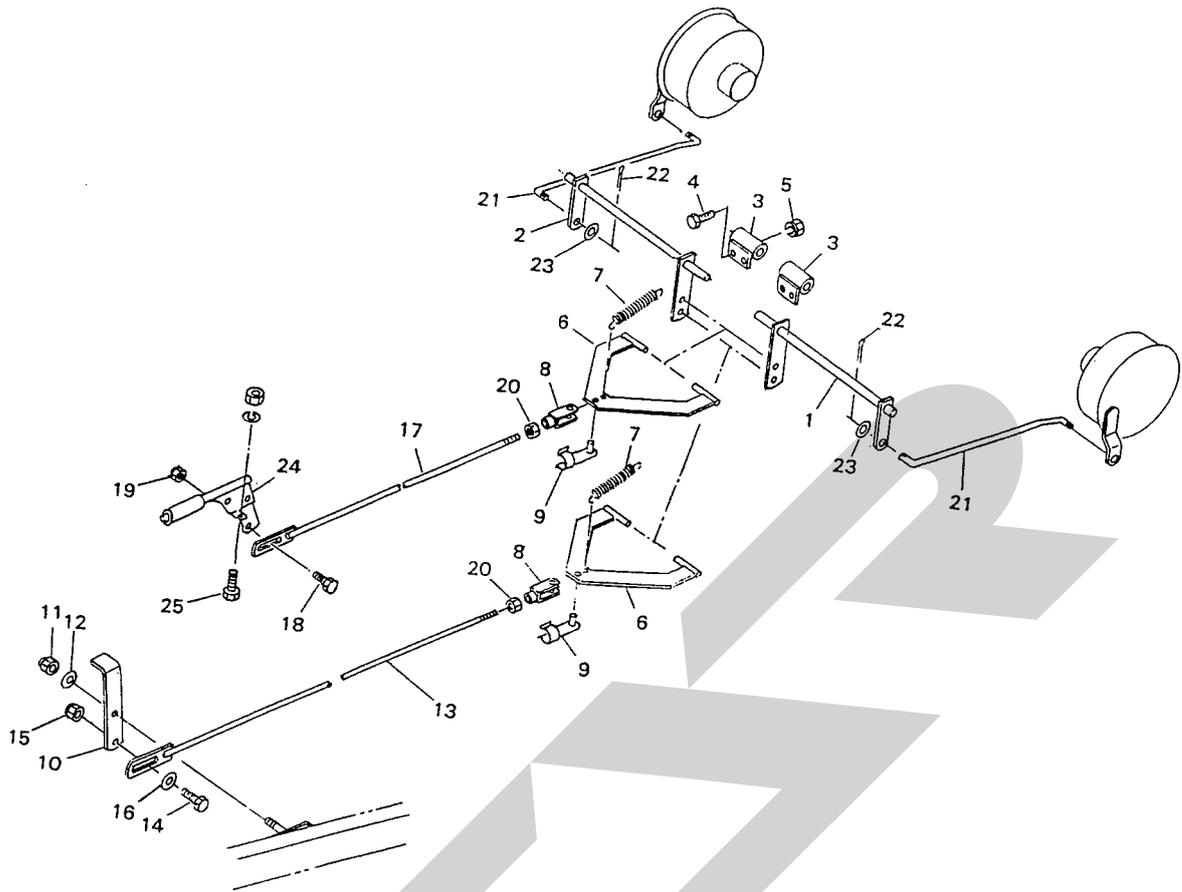
見番号	部品番号	部品名称	数量	見番号	部品番号	部品名称	数量
1	111123	ブラケット	2	28	PD40	ロックプラグ; PT1/2	1
2	BSZ08045	コガタボルト 7 M8×45	2				
3	BZ1645AG	ボルト; M16×45 (8. 8)	4	30	00928	ストップバルブ; 1/4	1
4	111125	ブラケット	2	31	ILT50L	インシュロック; T50L	1
5	111120	ピン	2	32	109838	プレート	1
6	111121	プレート	1	33	107296	ラベル; カイイ	1
7	NN12G	ナイロンナット; M12	2				
8	57897	スプリング	2	40	106997	デンソウヒンアッセンブリ	1
9	NN08G	ナイロンナット; M8	2	41	106997-1	リヤランプ; 3F	2
10	107069	ピン; φ20	1	42	106997-2	コード; 9000×2500	1
11	00087	リンチピン; 6	1	43	106997-3	7ポールピン	1
12	PS8032	スプリングピン; 8×32	2	44	106997-4	7ポールソケット	1
13	111122	ブラケット; L	1	45	103875	コンベックスペース	14
14	BZ1235AG	ボルト; M12×35 (8. 8)	8	46	ILT30R	インシュロック; T30R	16
15	107119	シリンダ; CWP50×435×650	1	47	111176	ロッド	1
16	107120	ピン; φ25	2	48	107215	ステー	1
17	00738	リンチピン; 6	4	49	BZ1230AG	ボルト; M12×30 (8. 8)	1
18	111152	ブラケット; R	1	50	42783	ワッシャ; 12	1
19	42783	ワッシャ; 12	8	51	NP05G	スプリングナット; M5	4
20	107122	ユアツホース; 1/2×750	1	52	113717	チュウカンハーネス	1
21	BZ1240AG	ボルト; M12×40 (8. 8)	1	53	113719	ブラケット	1
23	KLA40	エルボ; PT1/2	1				
24	KT40	ティー; PT1/2	2	60	114244	ブラケット	1
25	KN4020	ニップル; PT1/2×PT1/4	2	61	87792	スプリング; L	1
26	1015-08	メスコネクタ; PF1/2×PT1/2	1	62	BZ1270G	ボルト; M12×70 (8. 8)	1
27	YL40	エルボ; PT1/2×PF1/2	1				



12916

見出番号	部品番号	部品名称	個数	見出番号	部品番号	部品名称	個数
1	57940	タイヤ; 5.00-9-8PR ☆	4	22	113475	ブレーキツキハブ; R	1
	55529	タイヤ; 6.00-9-10PR ★	4	23	BSZ08020A	コガタボルト 7 M8×20	12
2	107052	チューブ; 5.00-9 ☆	4				
	55530	チューブ; 6.00-9 ★	4	30	113474-8	セットボルト; M12 (P1.75×25)	12
3	109446	ホイール; 3.50D×9DT ④4付☆	4	31	113474-10	キャップトメネジ	6
	64906	ホイール; 4.00E×9DT ④4付★	4	32	113474-9	キャップ	2
4	109448	ホイール; 3.50D×9DT バルブ穴付 ☆	4	33	PC3050G	ワリピン; 3×50	2
	64907	ホイール; 4.00E×9DT バルブ穴付 ★	4	34	113474-13	キャッスルナット; M24 (P2)	2
					35	113474-12	ワッシャ
5	BZ1225AG	ボルト; M12×25 (8.8)	24	36	113474-1	ブレーキドラム	2
				37	113474-11	オイルシール	2
10	00499	ハブ; B62×80	2	38	113475-1	バックプレート; R	1
11	J30208	テーパローラベアリング ; 30208	4	39	113474-7	シューモドシバネ	4
				40	113474-2	ライニング付ブレーキシュー	4
12	J30206	テーパローラベアリング ; 30206	4	41	113474-3	カムジク	2
				42	113474-4	カムジクナット; M12 (P1.75)	2
13	D508014	オイルシール; D50×80×14	2	43	113474-6	アンカーピン	2
14	WRA24G	ワッシャ; M24	2	44	113474-5	カムレバー	2
15	00712	キャッスルナット; M24×1.5	2	45	113474-14	バックプレート; L	1
16	PC4032G	ワリピン; 4×32	2	50	113366	シャジク; L	1
17	00415	キャップ; 62	2	51	113371	シャジク; R	1
18	00420	ボルト; M12×1.5×50	12	52	BZ16045AG	ボルト; M16×45 (8.8)	8
19	NZ12150G	ナット; M12×1.5 (8)	12				
20	WSA12G	Sワッシャ; M12	36				
21	113474	ブレーキツキハブ; L	1				

☆ TMT2520 ★ TMT3520



12917

見番	部品番号	部品名称	個	見番	部品番号	部品名称	個
1	113399	バー; L	1				
2	113403	バー; R	1				
3	113220	ホルダ	2				
4	BSZ10030	コガタボルト 7 M10×30	4				
5	NSP10	コガタスパックナット 4 M10	4				
6	113223	プレート	2				
7	80820	スプリング	2				
8	79422	フォークエンド; 10×40	2				
9	79423	ピン; 10×40	2				
10	113414	アングル	1				
11	NN12G	ナイロンナット; M12	1				
12	65482	ワッシャ; 12	1				
13	113405	ロッド; 1	1				
14	BSZ10035	コガタボルト 7 M10×35	1				
15	NN10G	ナイロンナット; M10	1				
16	75290	ワッシャ; 10	1				
17	113407	ロッド; 2	1				
18	BSZ08030	コガタボルト 7 M8×30	1				
19	NN08G	ナイロンナット; M8	1				
20	NSZ10	コガタナット 8 シュ M10	2				
21	113473	ロッド	2				
22	PC3220G	ワリピン; 3.2×20	4				
23	WRA08G	ワッシャ; M8	4				
24	113100	ハンドブレーキレバー	1				
25	BSZ08020A	コガタボルト 7 M8×20	2				

SFAA

STARR

調整

S-970509A

本社	066	千歳市上長都1061番地2 TEL 0123-26-1123 FAX 0123-26-2412
千歳営業所	066	千歳市上長都1061番地2 TEL 0123-22-5131 FAX 0123-26-2035
旭川営業所	070	旭川市神楽4条9丁目3番31号 TEL 0166-61-6131 FAX 0166-62-8985
豊富出張所	098-41	天塩郡豊富町字上サロベツ1191番地 TEL 0162-82-1932 FAX 0162-82-1696
帯広営業所	080-24	帯広市西22条北1丁目12番地 TEL 0155-37-3080 FAX 0155-37-5187
北見出張所	090	北見市小泉302 TEL 0157-24-3880 FAX 0157-61-1344
中標津営業所	086-11	標津郡中標津町北町2丁目16番2 TEL 01537-2-2624 FAX 01537-3-2540
花巻営業所	025-03	岩手県花巻市二枚橋第三地割333-1 TEL 0198-26-5741 FAX 0198-26-5746
仙台営業所	985	宮城県多賀城市町前2丁目4番27号 TEL 022-367-4573 FAX 022-367-4846
小山営業所	307-02	栃木県小山市梁2512-1 TEL 0285-49-1500 FAX 0285-49-1560
名古屋営業所	480-01	愛知県丹羽郡扶桑町大字高雄字南屋敷191 TEL 0587-93-6888 FAX 0587-93-5416
岡山営業所	700	岡山県岡山市下中野704-103 TEL 086-243-1147 FAX 086-243-1269
熊本営業所	862	熊本県熊本市長嶺南1丁目2番1号 TEL 096-381-7222 FAX 096-384-3525
都城営業所	885	宮崎県都城市都北町3537-1 TEL 0986-38-1045 FAX 0986-38-4644